

全国同信伝道会ニュースレター

No.26

(旧 同志社大学神学教育後援会ニュース 通算No.76)

2025年1月14日 1,300部発行

神学教育後援会募金事務担当

山崎道子（豊中教会教師） TEL：06-6852-3078 FAX：06-6855-1081
〒560-0024 豊中市末広町1-2-28 日本キリスト教団豊中教会

分担金事務担当

尾島信之（南大阪教会教師） TEL：06-6622-2011 FAX：06-6622-2048
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-30-5 日本キリスト教団南大阪教会

日頃より全国同信伝道会を覚えてお支えいただきありがとうございます。今号のニュースレターは初めての試みとしてコラムを掲載することにいたしました。今後も全国で様々な働きに携わっておられる方々の声を幅広く発信していきたいと思っておりますので、ぜひご一読ください。



神愛館に遣われて

社会福祉法人イエス団神愛館館長 山下 茂雄

香川県坂出市にある神愛館（乳児院）に遣わされて10年目を迎えています。これまでは牧師人事で移動してきましたが、神愛館には社会福祉法人イエス団のお招きを受けての着任でした。

さて、神愛館は、「社会的養護」の働きを担う乳児院です。様々な理由で家族と一緒に生活できない概ね3歳までのこどもが暮らしています。乳児院というと、皆さんはこどもの養育を担うところと思われるかもしれませんが、しかし、実際はこどもたちを家庭に復帰させること（家族再統合）や復帰後の親子の見守り（アフターケア）も大事な働きです。また、近年では乳児院の専門性を活かして、虐待防止の働き特に「特定妊婦等」への支援も期待されています。そういう意味では、乳児院は養育の現場であると共に家庭を支援する「ケースワーク」の現場でもあります。そ

のために、保育士だけではなく家庭支援専門相談員や心理職など様々な専門職が「チーム」としてこどもと家庭に寄り添っています。

入所理由は就労、経済的な問題などに端を発する様々な養育困難ですが、虐待が全体の42.6%と突出しています。そしてこの比率は年々徐々に増加してきています。また、児童相談所から届く「社会調査記録」を読むと、彼ら・彼女らの背後にある家庭の状況は、想像を絶するものもあります。特に貧困と孤立が特徴的です。

以前ある方が、保育園関係者が集まる席で「こどもの権利条約」に触れて次のような内容の話をされました。「この条約を作ったあるいは作らなければならないと考えた人々には共通した理解がありました。それは、何かあれば子どもが真っ先に犠牲になる、例えば戦争が起これば真っ先に傷つき、死んで行く。

そういう意味では、子どもというのは、世界の中で最も弱い存在、小さな存在であります。そして、この最も小さな存在である子どもたちが幸せである世界は、みんなが幸せである世界でもある。この共通理解が『子どもの権利条約』を生んだ。」印象に残る言葉です。

日本におけるこどもの数は、約1890万人（2022年）です。そして社会的養護全体では、約42,000人、約0.2%のこどもたちが社会的養護下で暮らしています。支援の必要なこどもたちのピラミットの頂点にいるのが彼ら・

彼女らではないかと思えます。

乳児院では、こどもたちが施設において幸せに暮らすことだけではなく、彼ら・彼女らの「人生の幸せ」にも思いを馳せながら務めを全うしたいと願っています。社会的養護下で暮らすこどもたちが幸せである社会は、みんなが幸せである社会であると思うからです。そしてそのようにしてこどもや家庭に寄り添いながら、牧師として働くものもがいても良いのではないかと思います。



消しゴムハンコと宣教

望月 麻生（足利教会）

「望月麻生 牧師・消しゴムはんこ作家・イラストレーター」

銀座のキリスト教書店、教文館の店員さんが作ってくれたポップにそう書かれていた。先頃出版した本を売りだしてくださっていたのだ。何も知らずにたまたま教文館に立ち寄ったときのこと。それにしても自分が「作家・イラストレーター」だったとは！そこがいばん驚きだった。肩書きは人からいただくものでもあったのか。

自分はもともと大変不器用だ。図工や家庭科は苦痛だった。子どものとき、「絵がうまい」なんて一度も言われたことはない。でもどういうわけか、神学部生のときに通っていた平安教会で、イラストレーターの柏木牧子さんが「CS だより」を描く役割を私に任せてくれたのだ。ハガキ1枚の中に子どもが喜んで見てもらえるような楽しい世界をつくり出すのは難しかった。でも、柏木牧子さんの真似をしながら続けた。すると、次第に楽しくなってきたのだ。人前に自分の描いた絵や字を見せることは、そのときに慣れた。

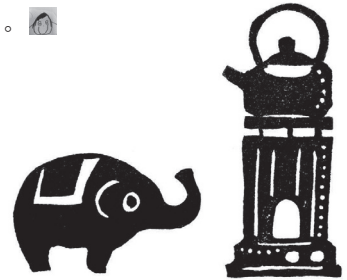
消しゴムはんこは、国分寺教会の伝道師になってから出会った。教会の人に出す手紙やカードをかわいらしくしたいという思いからだった。ある作家さんの本を手本にして練習を始めた。あるとき、その作家さんのワークショップに参加した。会場は霊南坂教会、の近くにあるお寺だった。「消しゴムはんこを彫ってお寺スイーツをいただく」という特別企画だった。お寺による、多くの人々に仏教を親しく感じてもらうためのきっかけづくり。私はイベントの趣旨にも興味津々だった。そういうわけで、私の記念すべきデビュー作は「降魔印をむすぶ釈迦如来」である。

それ以来、自分で作った消しゴムはんこを、時々ブログやSNSで投稿し始めた。それが15年ほど前。嬉しいことに、応援してくれる人たちがいた。雑誌や絵本の挿絵を頼んでくれたり、消しゴムはんこのワークショップを開く機会をくださったり。最近では、保育の仕事に携わる方々とハンコを彫ることも多くなった。

消しゴムはんこは、刃物の使い方さえ気をつけていれば誰でも楽しめる。いわば、小さ

な版画である。細かく彫るのも一つの面白さだが、シンプルな形や線のほうがかえって奥深いこともある。そして、いろんな人と消しゴムはんこを楽しんでいると、その人だけの線や色というのは確かにあるのだと感じる。そのどれもが面白くて意外で美しいのだ。参加者同士もお互いの作品を楽しみ、ほめ合うことが多い。大人になると「相手をほめる」ことはあまりなくなるので、貴重な機会だ。また、彫るうちに無心になれて良かったという声もよくいただく。ワークショップはただ技術を得る場ではない。自分の分身と言うべ

き作品が人に愛され、気持ちもスッキリできる時間なのである。一人で夜ふかししながらハンコを彫ってる時間も楽しいけれど、この小さな手のわざを通して多くの人たちと出会えたことはほんとうにありがたいことである。🏠



コラム

日独ユースミッション

伊勢 希（京葉中部教会）

8月13日（火）～27日（火）まで「私たちのミッションとは？～マタイ 28：18-20の御言葉に私たちはどのように応えられるだろうか～」を主題テーマに日独ユースミッションが行われた。2022年、私は短期派遣宣教師として半年間、ベルギーにあるブリュッセル日本語プロテスタント教会に派遣して頂いた。（改めて覚え支えてくださった方々に感謝致します。）ビザ取得の関係からケルンでホームステイ、平日はドイツ語学校に通っていた為、この働きに去年から参加している。

もともとこの働きはヴィットシュトック・ルビン教区の婦人方と全国教会婦人会連合の有志によって始まった。2002年、初めてドイツからユースを迎えて以来、不定期だが互いにユースを送り出し続けている。一時コロナにより中断されていたが去年再開。今年は日本からユース10名（中学生1名、高校生6名、大学生3名）、スタッフ2名でドイツに向かった。ベルリンに近いヴィットシュトックを中心に過ごした。プログラム内容も濃く、主題

テーマをもとに、そもそも「私にとって宣教とは何か」を考えながら進められた。ドイツの歴史や1年の大半を船で生活する方々への宣教を伺ったり、温暖化を止めるために植樹作業を行ったりと盛りだくさんであった。

個人的感想として、ドイツと日本のユースたちが抱える思いは重なる部分が多いことに驚いた。ドイツ教会の現状を聞いてみると毎週日曜日にかかさずくる信徒（参加者）は少ない。若者なんて来ることの方が珍しいとのこと。だからこそ毎週教会に行って礼拝を守っている若者は目立つ。ドイツのユースたちは「礼拝に行っていると友だちに言うとな変な空気になる」と話し、自分たちをマイノリティーの側にいると表現した。私はドイツでそのような言葉を聞くと思わず興味深く聞いていたが、その言葉に一番反応したのは日本のユースたちだった。日本におけるクリスチャンの割合は人口の1%。彼らもドイツメンバーと同じような肩身の狭い思いを抱えているのだ。そういった面からも意気投合したのか、日独



ユースメンバーは移動時間や就寝前、何故戦争は起きるのか・苦しいことは起きるのか、若者たちを教会に誘う方法等々、ずっと話し合っている姿が印象的だった。

今回、参加したユースたちからは帰国したら洗礼を受けたいと言う声や同志社神学部で学びたいと声があがった。嬉しく思いつつ2週間で雰囲気ガラリと変わったユースの姿に驚いた。彼らにとってそれだけの経験を得



たのだと感じつつ、大事なことはそんな経験ができる場の提供を大人たちが作っていくことなのだと痛感した。今回の参加者には教会に行っていない子もいたが、ミッションスクールの先生による働きで参加してくれた子もいた。教会だけでなく幅広く連携をとりつつ、若者たちに様々な機会を提供できたら良いなあと感じる時となった。

同志社大学神学部報告

神学部長 関谷 直人

神学部の報告をするに際して、まず最初に2024年11月15日に本学部専任教員中野泰治先生がご逝去されたことをお伝えしなければなりません（中野先生のご略歴などにつきましては、本文末に記した中野先生のおつれあい様よりいただいた文章をご覧ください）。中野先生は2012年4月に同志社大学神学部に入社され、研究活動や大学内の業務はもとより、教育者として、大変丁寧な学生対応をされてこられました。そのため、今回の逝去に際して、中野先生の薫陶を受けた学生の皆さんが受けた衝撃は計り知ることができません。ご遺族をはじめ、今、先生を失って悲しみの中にある学生の皆様の上に、天来の豊かな慰め

を祈ります。

さて、神学部は今年度、すでにご存知の通り、小原先生が学長として出られたこともあり、少ない数の専任教員での学部運営を余儀なくされてきました。突然の中野先生のご逝去に加えて、役職定年を迎えておられる先生方が三人おられ（来年から私もそこに加わります）、「実働チーム」としてはさらに苦戦を強いられている状況です。

ただ幸いなことは、2025年度より組織神学の担当者として杉田俊介先生をお迎えすることができるようになったことです。杉田先生は現在日本基督教団仁川教会の主任担任教師をされておられ、いくつかの大学の嘱託講師を

兼任されておられます。神学部としては、先に旧約聖書学の分野でお迎えした黒柳志仁先生や、杉田先生のような今後の世代の神学部を牽引してくだるような「若手」の先生をスタッフとして増し加えることで、世代交代を図り、現在やや高齢化している教員構成の「若返り」を加速させていきたいと願っています。

今年度は神学部の教員が手分けして、日本各地のキリスト教主義の高校訪問を積極的に行いました。私自身も、九州学院高校や共愛学園高校、新島学園高校、そこから新潟にまわり敬和学園高校などを訪問してまいりました。こうした神学部からキリスト教主義学校への働きかけは、すぐに効果は出ないかも知れませんが非常に大切であり、今後も地道に続けていっていただきたいと思います。といいますのも、現在、神学部の入学定員は、いわゆる「自己推薦入試」「公募推薦入試」「法人内緒学校推薦入試」「キリスト教主義学校の連携ネットワーク推薦入学試験」などの推薦入試が半分、残りを「一般入試」と「大学入学共通テスト」が占めています。学生さんの様子を拝見していると、やはり推薦入試で入って来られる学生さんの中に、多くのキリスト教関係者一教会に通っていた、キリスト教主義学校で聖書の授業を受けてきた、牧師のご家庭のお子様方などがおられます。これらの方々は、(すべての学生さんがそうだとは言いませんが) 全般的に神学部との適合性が高く、学びに対するモチベーションも高いように感じます。このニュースレターが届けられている読者の皆様は、まさに、その「キリスト教関係者」を育て、導いてくださっている方々ですから、どうぞ今後とも神学部の働きを祈りのうちにお覚えくださり、神学部に関心を持ってくださいる学生さんを、神学部にお送りいただければと存じます。

今年度、博士課程前期を修了して、牧会に出られる予定の学生さんは2名です。このところ牧会に出られる学生さんの数は一桁の

前半の最初の数名に留まっていますが、これについても、全国の同信伝道会の皆様のご協力なしにはどうにもなりません。ピカピカの高校生から学部四年を終えて修士課程に上がってこられる学生さんだけでなく、教会に来られていて神学部以外の大学に通っておられる学生さんや、すでに社会人として「セカンドキャリア」をお考えの方々に「この方は!」と思われる方がおられましたら、ぜひ「同志社大学神学部博士課程前期」への進学をお声かけください。現在、大学院からスタートして日本基督教団の補教師試験を受験するとなると、どうしても必要単位数の関係で3年計画となりますが、これについては最初から3年計画で大学院修了をお考えの学生さんの場合、2年間の学費相当分で3年間学べる学費補助奨学金の制度もご用意しています。ぜひ、積極的に同志社大学神学部博士課程前期への進学をご検討いただけるよう働きかけをお願いします。

最後に2025年度から始まるいわゆる「新カリキュラム」について、一部をご報告させていただきます。これは全大学的なカリキュラム変更で、簡単に言いますと「学生目線の分かりやすいカリキュラム」への変更です。これらの変更とは、これまで神学部があまり積極的に採用してこなかった「グレード制」に少し寄った形の、「基本科目」、「展開科目」、「トピック科目」、「領域横断科目」、「語学科目」などのような科目の統一的な分類と、その全体像を一覧できるように作られた「カリキュラムマップ」と「カリキュラムツリー」の提示などです。それでも神学部はこの全大学的なカリキュラム改訂に際しても、従前通り必修科目は神学2単位のみという点については変更はありません。ただ、カリキュラムのポリシーでもうたっている「一神教を学ぶ」という観点から2025年度生からは、キリスト教神学の科目から最低4単位(2科目)、ユダヤ教、イスラーム教関連科目から最低2単位

ずつ（各1科目）を履修することを義務付けるようになりました。これについては教授会でも様々な議論がありましたが、キリスト教を専門に学びたいという学生さんであっても、最低1科目を他の宗教の科目から履修をするということは、決して悪いことではないだろ

うということ、このような変更を行いました。

私の学部長は役職定年の関係もあり、今年度で終わりますが、引き続き神学部の教育・研究活動をお支えくださいますよう心よりお願い申し上げます。

訃報 中野泰治先生

2024年11月15日 急逝されました。

中野泰治先生は1973年淡路島生まれ、同志社大学神学部卒業、神学研究科博士前期課程を修了後、バーミンガム大学にてPHDを取得。

ご専門は近現代の英米のキリスト教史およびクエーカー（フレンド派）の歴史・思想。2012年より神学部教員。ご遺体の本人確認に時間がかかり、12月26日にやっとご遺族と中野ゼミの卒業生たちに囲まれて葬儀を行うことができました。 中野真貴子

第4回代議員会期・第3回拡大常任委員会報告

書記 尾島 信之（南大阪教会）

11月25日（月）天満教会で拡大常任委員会を対面、配信併用で開催いたしました。三役、常任委員、四部門委員長、北海道、東北、関東、東京、中部、京都、大阪、兵庫、中国、四国、九州・沖縄の全国11地区の代表者等計25名による会議を持ちました。

各地区・神学部報告、四部門の活動報告、会衆主義教会研究会報告等がなされましたが、特記事項として「天上の友」第5編の発行に向けて、編集が始められました。「天上の友」は同志社大学神学部卒業生を中心とした牧会者で、天に召された方々をお覚えし、お一人おひとりの足跡を記載している書籍となります。第4編を発行してから10年が経過しましたが、その間に約100名が天に召されています。

これほど多くの天上の友が紹介されるのは、既刊にはなかったことです。来夏開催予定「同志社神学協議会2025」での会場販売を目標に作業が進められています。また、一般書店での販売も予定されています。他にも来年迎える同志社創立150周年にあたり、全国同信伝道会でも記念企画を立ち上げてみる良い機会ではないかとの意見が出されました。

一つひとつの話し合いを通じて、同信の友の多種多様な活動が神様の導きのうちに進められていることを感じさせられました。これからも会衆主義教会の持つ「自由自治」の気風を大切にする討議の場となることを願っています。

人事委員会報告

委員長 菅根 信彦

去る11月26日（月）天満教会にて開催された第3回拡大常任委員会後、午後4時より地区「合同」人事委員会が行われました。北海、東北、関東、東京、中部、京都、大阪、兵庫、中国、四国、九州・沖縄の11地区の委員と神学部・人事委員合わせて23名が集いました。関西を中心として構成される人事委員会は毎月1回のペースで、主に天満教会を会場に開催され、地区「合同」人事委員会は6月と11月に1泊2日で協議を重ねてきています。毎回、「教師を求める教会」、「任地を求める教師」のリストをもとに協議を行い、様々な希望や事情を考慮して、教師と教会・伝道所を繋いで教師の異動をスムーズに行うために協議や交渉を重ねています。ここ数年の実績では、年間30件前後、多い年では40件ほどの異動に携わっています。今年度も30件ほどの教会から依頼が届いています。

最近の傾向としては、全体的に教会からの依頼が遅く、夏以降、あるいは秋頃の依頼も

あり、年度内での教師の紹介や異動が難しい状況ができています。教師の異動が年度を超えることがあり、その間の繋として代務者や協力牧師をお願いするケースが増えています。また、教師を迎える諸教会の財政状況が厳しく、謝儀を巡る調整、兼任兼牧、任期制の導入、付帯事業の運営などなど、検討すべき新たな課題があります。すでに、宣教困難なエリアでは、一教会で一人の教師を支えるということが難しくなってきています。会衆主義教会研究会とも連携して、持続可能な招聘制度の在り方、教師養成の在り方などの対応策を考えていく必要に迫られています。今年度も様々な課題を抱えながらも人事委員会の働きを続けていきます。人事異動のこと以外でも、何かご相談することがあれば、人事委員並びに地区委員へお気軽に声をかけていただければと思っています。祈りを合わせて、この時代に託されている宣教の業に共に励んでいきましょう。

財務委員会報告

委員長 平山 正道

皆さまには、常日頃より全国同信伝道会神学教育後援会への温かいお祈りとご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

11月19日（火）に同志社大学神学館において、関谷直人神学部長臨席のもと、「奨学金授与式」を無事執り行うことができました。

山崎道子牧師の進行で開会、聖書朗読・祈祷に続いて菅根信彦全国同信伝道会々長と関谷神学部長から挨拶を受けた後、奨学金の目録を一人ひとりに授与しました。今年度の対象者は、神学生奨学金（5名）、外国人留学生奨学金（3名）、合計8名です。別添会計報

告の通りです。この奨学金の原資が、尊い献金であることの重みを胸に、神学生たちは感謝の思いを忘れず、勉学に励んでほしいと思います。昼食を共にして歓談後、尾島信之牧師の祈祷をもって閉式しました。

昨年度から「派遣神学生教育支援金」という新しい取り組みを始めています。派遣神学生が安心して教会現場で実習できるように、側面から支援していくことを目的にしています。今年度は4教会（京都丸太町、高槻日吉台、同志社、平安）の神学生を支援させていただきました。

この秋のトピックとして、コロナ禍で中断していた「教会訪問」を再開しました。天満教会（11月17日）と西宮教会（11月24日）の2教会の礼拝に、信徒財務委員の石若義雄さん（桂教会員）と赤松信哉さん（平安教会員）が出席して、礼拝後にアピールと献金の要請をさせていただきました。2教会合わせて、

10万円を超える多大なお捧げをいただきました。ご協力、本当にありがとうございました。

また、昨年度設けた「神学生緊急支援金」については、神学部事務室からの助言も受けて、募集方法や対象者の選定手続き等、実際の運用の細部を整えました。先日開催された拡大常任委員会での承認を得て、すでに要項を神学部掲示板に張り出して募集を開始しています。お捧げいただいた献金が、突発的な事情で経済的困窮に陥った神学生を支えるために、有効に用いることができればと願っています。

わたしたちが微力ながら行っている、神学生を支える働きは、教師を養成する場でもある神学部を支えることにもなり、長い目で見れば、各個教会を支えることにつながっていくものと信じています。引き続き、全国同信伝道会神学教育後援会へのご支援をよろしくお願いいたします。

ネットワーク委員会報告

委員長 新井 純

神学協議会の狭間の今年は、6月に埼玉県熊谷市で東日本同信会、8月に福岡市で西日本同信会がそれぞれ開催されました。2025年度は神学協議会開催年になり準備を始めましたが、同志社開学150周年を迎える年でもありますから、充実した協議会を開催できるよう祈りつつ備えていきたいと思っています。8月25～26日、同志社大学にて開催予定です。

3月7日には京都で予餞会を開催予定です。現時点では2名の新卒者を送り出す予定

です。

付帯施設のある教会に赴任している、特に比較的若い方々から、付帯施設のある教会での牧会や施設運営について学び、また悩みなどを分かち合う研修の場を設けて欲しいとの要望が出ており、この実現にむけ検討を開始しました。どのような学びが求められているのかを調査しつつ、教師養成部門と協働で、できれば神学協議会に合わせて学びの場を作りたいと思っています。

教職養成部門委員会報告

委員長 栗原 宏介

教職養成部門では2024年8月12日～14日に同志社びわこリトリートセンターを会場として、「牧会10年経験者セミナー」を開催いたしました。今回対象の方は2010年～12年に着任された先生方で、12名が参加されました。本来であれば2014年前後に着任された方々が対象になるのですが、コロナ禍で一度開催が延期されていたので、少し前の方々が対象となりました。次回、次々回の開催で対象者を「牧会10年」の方々にしていきたいとします。今回の講師は森孝一先生で『『負のスパイラル』から脱却する方策は?』というタイトルでお話いただきました。またチャプレン的な働きを山崎道子先生が担ってくださり、ご自身の牧会経験から得た様々なお話を伺うことができました。参加者それぞれに牧会10年を積み重ねてきた思いを持ち寄り、共有し、分かち合いました。講演を聞き、現

場からの声に耳を傾け、グループでの話し合いを行い、リフレッシュセミナーもあり、夜には懇談の時間が持たれて、自らを振り返り、旧交を温めつつ、今後に思いを向ける良い機会となったのではないかと思います。

現在当委員会では、2025年2月18日～20日に開催予定の「牧会者準備セミナー」の準備を進めています。対象者は牧会の現場に出られて3年目までの先生方と牧会志望の大学院生の方々です。神学館を会場に神学講演や牧会現場からの声を反映した主題講演などを予定しています。基本的には例年の流れを踏襲したプログラムを考えています。また「教師検定試験対策講座」の準備も併せて進めております。

引き続き祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

会衆主義教会研究会報告

座長 後宮 敬爾

会衆主義教会研究会は、今日における会衆主義教会の存在意味を検討し、将来を展望するために設けられ、現在第6期目の活動を継続しています。現代社会における会衆主義教会の使命と役割が、大きな研究課題です。

今期、託されている課題は、(1) 同信伝道会 HP を開設と運営 (2) 伝道献身者奨励事業（神学部・教会・同信会の協力）の検討

(3)『天上の友』第5集を発刊するための検討 (4)「基督教世界」誌の再発行の可能性 (5) 同信伝道会メンバーシップについての検討 など多岐に亘ります。

日本基督教団の統計によりますと1990年ごろは、平均して60名の信徒で教会を支えていました。それが2022年では、45名で支えるという現状になっており、この傾向はこれから

も続くことが予想されます。しかも、その教会にコロナ下の影響があり、一気に教勢減少状況が進んだようです。これは同信会の教会だけのことでなく、キリスト教会全体がそういう状況に置かれています。つまり、これからのことを考えると、一教会に一人の牧師が専従でいるという体制を維持することは信徒にとっても、牧師にとっても、難しくなっていくのです。

その中で、知恵と祈りをだしあって、新しい宣教体制を築いていくか、それが最重要のテーマになっています。兼牧やチーム牧会、信徒と共同の牧会など、オンライン礼拝の有効利用など、さまざまなことを検討して、そ

の情報や取組みを発信していきたいと考えています。

『天上の友』第五集の発刊に向けて具体的な作業を開始ししています。編集委員の方のご努力の皆さま間のご協力により作業は順調に進んでいます。2025年の夏頃には発刊し、皆さまにお届けできる予定です。また、このために、募金をいたしますので、ご協力をお願いいたします。

また、「基督教世界」誌の再発行に向けて、検討を開始しています。覚えていただければ幸いです。

この研究会の働きを覚えお支えいただきたくお願いいたします。

❖ 地区報告 ❖

■ 北海道地区

韓 守賢（北海教区幹事）

2024年11月17日（日）午後3時30分より、浦河教会にて、「大槻茂勝教師 准允式」「元浦河教会・浦河教会 牧師就任式」が執り行われました。大槻茂勝教師は、すでに2024年4月より元浦河教会・浦河教会に赴任され牧師としての働きを担っておられましたが、この度、晴れて主任担任教師としての歩みを始められます。

式の後、カフェぶらぶら（運営：浦河べてるの家）に場所を移し茶話会が行われました。両教会・参加者から喜びの声、お祝いの声、賛美が寄せられました。また、大槻牧師もユーモアと人情あふれるお人柄を感じさせるご挨拶により決意を語ってくださいました。最後に、遠方からも集まってこられ、約50名の方たちが両教会、大槻茂勝牧師の新しい歩みのために祈りを合わせました。

小規模教会が点在する北海道の地において、牧師と信徒が、教会同士が懸命に支え合おう

とする様子がとてもよく伝わってきました。神様のお守りとお導きがありますよう心よりお祈り申し上げます。

■ 関東地区

川上 盾（前橋教会）

関東地区は新潟・群馬・栃木・茨城・埼玉の関東教区と、長野・山梨・静岡の東海教区が範囲です。6月17日に開催された東日本同信会（於・熊谷）に合わせて総会を開き、藤秀彦さん（四條町）に代わり、川上盾さん（前橋）が代表となりました。

新しく関東教区に來られた教師は以下の通りです。

〈新来教師〉

* 寒河江健（十日町教会／四街道教会から）

* 安部勉

（高崎教会／淀川キリスト教病院から）

* 筒井昌司・伊丹美貴

（下館教会／明石教会から）

* 佐藤嘉哉（深谷教会／曾根教会から）

- ＊大塚忍（敬和学園高校／神戸教会から）
 - ＊滝口宣（単立所沢教会／浄風教会から）
- 天に召された教師は以下の通りです。

〈逝去者〉

- ＊青木敬和（元鹿島教会／7月1日）
- ＊松井初（佐野教会／7月19日）

■ 東京地区

原 牧人（豊沢教会）

東京同信伝道会は、約60の関係教会、また教務教師、無任所教師、隠退された先生方など含め、約100余名の教師たちが在籍されています。また総会で選出された5名の委員が中心となり、活動の企画や人事の件などに携わっています。

直近の活動としては、11月18日に秋の研修会を開催。衣笠病院でチャプレンの働きを担っておられる大野高志先生から、「病院に牧師がいるということ」と題した、現場での経験から得られた具体的な事例を通した貴重なお話を伺いました。

2025年2月には、関係教会同士の交流を深める礼拝交流（交換講壇）を予定しています。毎年約20教会が参加されています。

■ 中部・東海地区

吉澤 永（愛知教会）

今年は、5月14日（火）に総会と歓迎会を開くことが出来ました。世話役として、愛知教会の吉澤永さんが選出され、書記会計に各務原教会の川上侑さんが選出されました。全国的にも同じだとは思いますが、教会員が多く天に帰って行くことで、教勢が落ち込み、財政的にも、教会活動をしていく上でも、多くの困難を抱えています。教師も一人何役も抱え込んでいる者が多く、それは、教師も減少していることで、それだけ負担も大きくなっていると感じています。多くの困難を抱えています。主に希望をおくことで、主の憐れみと慰めによって支えられながら歩みを

進めたいと思います。

■ 京都地区

柳井一朗（洛西教会）

2025年3月、4人の教師が伝道牧会の現場で節目を迎えられます。

年度末に感謝、送別会の予定です。

■ 大阪報告

尾島信之（南大阪教会）

前回のニュースレター発行以後、2回例会が開催されました。2024年9月30日（月）【於：天満教会】には世話人である三浦遙さん（鳳教会）が発題をして下さり、参加者8名と共に各々が着任している教会等の宣教・伝道について語りつつ、思いを新たにすることがなりました。2024年12月2日（月）【於：大阪聖和教会】には大阪成全会の皆さんと合同で行なわれ、参加者21名（成全会12名、同信伝道会9名）が自己紹介をし、近況報告を分かち合いました。また、その後場所を在日大韓基督教会大阪教会の信徒の方が営んでおられる飲食店に移し、美味しい韓国料理に舌鼓を打ちました。

2025年は隔年で行なわれている全国同信伝道会の代議員会が予定され、それに伴い、代議員を選出することになります。選出方法が喫緊の課題となっていますが、大阪地区では現状として、世話人による会議で候補者を推薦し、例会に集った参加者にお示しした上で、承認していただいています。

世話人は、戸根裕士さん（蒲生教会）、三浦遙さん、山下壮起さん（阿倍野教会）、山崎道子さん（豊中教会／人事委員）、尾島信之（地区委員／人事委員）が引き続き担っています。

■ 兵庫地区

新堀真之（甲東教会）

兵庫地区では年3回の例会が行われ、毎回

20名ほどが集っています。11月18日（月）、神戸雲内教会を会場にして、今年度第2回目の例会が開催されました。はじめに第43回教団総会に出席した教師より報告を受け、その後は互いの近況を共有しました。

兵庫地区内での特記事項としては、以下の二点が挙げられます。

神戸教会（代務者：山本一さん／担任：大垣友行さん）が創立150周年を迎え、9月29日（日）に記念行事が開催されました。関谷直人さん（神学部長）、森田喜基さん（キリスト教文化センター）をお迎えして記念礼拝と記念シンポジウムが執り行われ、多くの出席者であふれる喜びの時となりました。これに続き、2025年には神戸女学院の150周年が控えています。

また西神美賀多台教会（主任担任：清水朝子さん）が予期せぬ不審火にみまわれ、清水牧師は牧師館での生活ができない状態が続いています。これを受けて11月より「教会回復献金」（期限：2024年11月～2025年8月末）の呼びかけが開始されています。お祈りとお支えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 四国地区

木谷 誠（今治教会）

四国同信伝道会は、それぞれの現場で課題を誠実に担っている。お互いに敬意と友愛をもって共に歩んでいける状況を感謝している。

さて、閉校が決定した清和中高を訪ね、生徒たちと礼拝を守り、閉校に至るまでの経過と今後の展望を伺った。閉校という状況の中にあっても、小西二巳夫校長を中心に生き生きと教育を行い、生徒に熱心に関わっている様子に深い感銘を受けた。また閉校に伴う様々

な対応（生徒、保護者、教職員等）も誠実かつ的確になされており感心させられた。閉校は各方面において様々な難しい対応がなされる。小西二巳夫校長の健康が支えられるように、また残り少ない日々、生徒、教職員に祝福があるように、祈りつつ、四国同信会として精一杯できることをなしていきたい。

送別会 異動される教職がいる場合、2025年3月に送別会を行う。

■ 九州・沖縄地区

松崎 豊（福岡弥生教会）

去る8月20日（火）～21日（水）の日程で、九州地区の担当により西日本同信伝道会を九州キリスト教会館で開催しました。今回は、「教会における招聘制」というテーマで、後宮敬爾教師（霊南坂教会）に講演して頂きました。講演では、招聘制の原則的な事柄とともに、教会と教師が交わした契約に基づき教会は教師を支えつつ教会活動を協働していくことが大切であることを具体的な事例を通してお話し頂きました。

講演後、地区ごとに参加者の紹介をし、その後会場を稚加榮に移して懇親会を持ち親交を深めました。2日目は講演の続きと質疑応答、その後全国同信伝道会報告（菅根信彦教師）、神学部報告（関谷直人教師）を受け散会しました。参加者は、会場61名、オンライン16名でした。各地よりご参加下さいました皆様ありがとうございました。

2024年4月から無牧師となった福岡警固教会は、9月より北村智史教師が着任し、11月10日（日）に就任式が九州教区議長の司式により執り行われました。北村教師と福岡警固教会の今後の歩みが祝されますようにお祈り下さい。

❖ 東日本ユースキャンプ2023報告 ❖

主事 玉置千鶴子（長岡教会）

主題：「それが道になる」

出エジプト記3章1節～5節（4節）

チャプレン：望月麻生（足利教会）

講師：村上 みか（同志社大学神学部）

日時：8月6日（火）～9日（金）

会場：菱風荘@新潟・福島潟

上記の通り、キャンパー11名を迎えて今年も東日本ユースキャンプを開催することが出来ました。昨年のリスタートのキャンプを経て、ようやく従来通りのキャンプを新しいスタッフも迎えて実施することができ、ホッと胸をなでおろしています。またキャンパーが心も体も元気に帰ることが出来たのは食事面でのサポートも大きかったように思い感謝します。自炊か、（なんとも言えない）お弁当…という選択肢しかない中で、長倉望牧師を中心に新潟教会の方々が食事を提供（6／9食）してくださり、スタッフ分やおかわりが無くなる程、皆「おいしい♪」とたくさん食べて元気に過ごすことが出来ました。

チャプレンの開会礼拝における「時に呪いともなりえる周囲からの期待やキャラを演じなくて良い。何者でもない自分としてこのキャンプを過ごして欲しい」とのメッセージに「本当の自分を出すのは怖い…」との思いを最初こそは少なからず感じていたキャンパーも、徐々に本当の自分を出すことが出来る空間・関係性に安心感を覚えて3泊4日を過ごすことができたようです。またモーセが柴の中に燃える火を見て、道をそれたところから新たなストーリーが始まったようにユースキャンプがキャンパーのこれからの歩みの中で思われぬ道標になりますように…との思い・祈りの中で私たちスタッフも共に過ごすことが出来ました。講師の講演においてはルターの歩み、

ことに「聖書には敵をも愛しなさい、とある。しかし自分の内面に向き合えば向き合うほど、自らの罪の深さを認識し、苦しんだ」という姿を通して、それぞれが今・生々しく抱えている困難や思いを分かち合うきっかけとなりました。スタッフからも朝・夕の礼拝を通して様々な思いが分かち合われました。

この3泊4日という長いようで短い時間の中で、それぞれのメッセージやグループでの分かち合い、また夜の語らいなどをも通して、それぞれに自分の心の中に一人で抱えていた思いや他者と深く向き合い、スタントやキャンドル・サービスの中で証し（自己開示）をし、互いの心に静かに触れ・聴き合う時を持つことが出来ました。

また閉会礼拝を通して共に過ごした時間を振り返りつつ、一人ひとりを祝福の内に送り出しました。その他にもモルックや、近隣の自然に触れることを通して心も体もリフレッシュして過ごすことが出来ました。

最後になりましたがキャンパーを送り出して下さった保護者の皆様・関係者の皆様、また献金や差し入れなどの様々な形で覚えお支え下さった皆様、スタッフまた送り出してくださった関係者の皆様に、この場を借りて



感謝申し上げます。この東日本ユースキャンプ（東日本高校生献身修養会）がこれからも継続されていきますように、引き続きお覚えお支え下さいますようよろしくお願いいたします

ます。

＊郵便振替

東日本ユースキャンプ 00140-9-743198

❖ 西日本献身キャンプ報告 ❖

三浦 遙（鳳教会）

いつも西日本献身キャンプを覚えてお祈りいただき、心より感謝申し上げます。

先日、第76回西日本献身キャンプを2024年7月31日～8月2日の2泊3日、滋賀県琵琶湖のほとりにあります同志社びわこリトリートセンターにて無事行うことが出来ました。15名のキャンパーを迎え、講師として神学部の村山盛葦教授をお招きし、総勢29名にて予定通りにプログラムを行うことが出来ましたこと、何より皆様の多くのご支援とお祈りのうちに終えることが出来ましたことを感謝いたします。

久しぶりの2泊3日の西日本献身キャンプ。実に2018年度以来となります。新型コロナウイルスの影響はもちろん、どうしても8月頃は台風の影響が多く出てしまい、中止せざるを得ない年度が何度ありました。その間、事務局と校長が代わり、新しい体制でのキャンプ運営となりました。若輩者の事務局を支え、導いてくださったスタッフの方々に感謝するばかりです。

ここ数回のキャンプではキャンパーの募集において「20歳まで」という年齢制限をかけておりました。高校生達が交流しやすいようにとの配慮であったとお聞きしています。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、キャンプへの参加が叶わず、20歳を超えてしまった方々のお声に応え、今回は年齢制限を外してのキャンプとなりました。実際に高校

生の頃にこの西日本献身キャンプに参加してくださり、様々な経験を経て同志社神学部に入學された方の参加もあり、嬉しい再会にも恵まれました。ですが、今回のキャンプは大学生の参加が15名中8名と多くなり、大学生同士での交流が目立ってしまったことは今後の課題です。高校生にとっては緊張感のあるものであったかもしれませんが、プログラムの中外でそれぞれが密に交流し、またとない出会いに自然と向き合っていく姿もありました。スタッフが思う以上にキャンパー同士がキャンプを楽しみ、学びや気付きのある充実したものとしてくれたことは嬉しいことでした。

このキャンプの開催に伴い、多くの教会からご献金、また同信会からも多くのご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。今後どうぞ祈りの内に覚えてい頂けると幸いです。何より、キャンパー達のこれからの歩みの上に、主の豊かな恵みが注がれますようにと祈ります。



奨学金受給者の声



▶ 神学生奨学金

■ 神学研究科前期課程 1 年生 市田純子

全国同信伝道会より奨学金を賜りましたこと、心より感謝申しあげます。4月から神学を学んでいますが、本当に楽しい学びの日々です。こうした学びが多くの方々への祈りと献金に支えられていることを思い、身の引き締まる思いです。将来は地方の教会のために働きたいと考えております。皆さまの祈りにこたえられますよう、精一杯勉学に励んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 神学研究科前期課程 1 年生 小林恭平

この度、全国同信伝道会神学生奨学金を拝領いたしました、神学研究科2024年度入学生の小林恭平と申します。こうして、皆様のお支えの中、牧会のための学びをさせていただける喜びを感謝いたします。神学研究科では座学だけでなく、派遣神学生や夏期伝道実習など様々な実践的学びの機会もお与えていただいております。その点につきましても大変感謝しております。皆様の後輩として現場に出ることを楽しみにし、日々邁進いたしておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

■ 神学研究科前期課程 2 年生 滝口大気

この度、神学生奨学金を賜れたことを関係される皆様と主に感謝いたします。

去年度から引き続き京都丸太町教会にて派遣神学生として奉仕をさせていただいております。月に1～2度の夕礼拝での奨励奉仕に加え、各委員会などにも参加させていただき多くの良き経験を積ませていただいております。

これからも信仰を大切にし、勉学に励んでまいります。

■ 神学研究科前期課程 2 年生 椿 克也

皆様の日々のお働きに感謝いたします。この度は全国同信伝道会神学生奨学金に選出していただきましてありがとうございます。大変ありがたく思います。私は修士論文で近年社会的に影響を及ぼしている「AI技術の実践的利用に関して」と題し、実践神学的立場から教会でのAI利用に関して研究をしています。現在はその論文の締切と補教師試験対策に日々励んでおります。来年度から日本基督教団の教師として牧会に出る身として、様々な学びを続けてまいりたいと思います。その学びのためにこの奨学金を大切に使用して参りたいと思いますので、これからも皆様の温かい心でお見守りいただけると幸いです。

■ 神学研究科前期課程 2 年生 藤田和也

この度は神学生奨学金をご支給いただき、心より感謝申し上げます。皆さまからのお支えとお祈りによって、昨年度に引き続き、今年度もご支援をいただくことが許されました。

前期課程の最終学年を迎え、教師として立つ日がいよいよ間近に迫ってまいりました。同志社教会での奉仕を続けつつ、修士論文の執筆と教師検定の準備に勤しむ日々です。神学生の立場で教会に関わる時間はあと僅かですが、研鑽を怠ることなく、奉仕と学びを続けてまいります。

▶ 外国人留学生奨学金

■ 神学研究科前期課程 2 年生 金 茶云

同志社大学 神学研究科 金茶云です。

この度、全国同信伝道会より奨学金をいただき、誠に感謝を申し上げます。私は韓国から来た留学生です。同志社での学び、派遣神学生として日本基督教団神戸教会で働く機会

をいただきました。その中で、この奨学金を受け取ることができ、少しでも金銭的な心配をせずに、教会で働き、学校で学ぶことができました。いただいた恵みを忘れず、常に謙虚な心で、この奨学金の趣旨に恥じないよう、教会や学校で精進してまいります。誠にありがとうございました。

■ 神学部4年生 陳 可桐

この度、奨学生に選出していただき、誠にありがとうございます。私の勉強や学生生活を常に応援してくださる教会の皆様、心より感謝申し上げます。現在、母国である中国でのキリスト教伝道活動に関する研究に取り組んでおり、将来的には日本だけでなく世界各地で福音伝道を行うため、多方面の学びを進めております。この機会をもちまして、来年度から同志社大学神学研究科に進学することをご報告いたします。ビジョンを実現する

ために、大学院で神学の学びをさらに深めてまいります。引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。改めて、心より感謝申し上げます。

■ 神学部3年生 李 有珍

この度は奨学金を授与いただき、誠にありがとうございます。留学生として日本で学業を続ける上で、大変助けとなります。私は、よりインクルーシブなあり方を持つ教会や社会の形成に貢献できる人になりたいと考えております。一朝一夕に実現できるものではありませんが、一步一步研究を進めつつ、より多くの若者に教会に来てもらいたいと思っております。この奨学金は私にとって大きな励みとなり、今後も未来世代のために、自分にできることを具体化していきたいと思います。改めてありがとうございました。



2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付者芳名 (敬称略)

(2024年4月1日～2024年11月30日)

※ ○内数字は寄付回数 お1人(団体)数回のご寄付も1口に

※ 地区の記載は寄付金振込み時の住所による

【北海道】

計	5口	50,000円
石川宣道②	10,000	
石川まなか	5,000	
大島義浩	2,000	
札幌北光教会	30,000	
匿名希望	3,000	

【奥羽・東北】

(青森・岩手・秋田・宮城・福島・山形)

計	3口	15,000円
小林休	5,000	
鳴子教会	5,000	
村上教会	5,000	

【関東】

(新潟・群馬・栃木・茨城・埼玉)

計	5口	36,000円
鹿島教会	10,000	
川上清樹	10,000	
阪口吉弘	3,000	
福本光夫・正美	10,000	
宮内常喜	3,000	

【東京・神奈川・千葉】

計	9口	378,000円
小林茂	5,000	
千葉教会	20,000	
東京山手教会	30,000	
土橋晃	5,000	
原宿教会	300,000	
藤原佐和子	5,000	
牧田友香	5,000	

三宅規之	3,000	
代々木教会	5,000	

【東海・中部・北陸】

(長野・山梨・静岡・富山・石川・福井・愛知・岐阜・三重)

計	10口	92,000円
愛知教会	50,000	
稲垣壬午	10,000	
軽井沢追分教会	5,000	
坂下教会	3,000	
田瀬教会	5,000	
中部教区三重地区婦人部	5,000	
付知教会	3,000	
東海教会	3,000	
床次隆志	5,000	
名古屋東教会	3,000	

【京都・滋賀】

計	28口	201,300円
赤松信哉	5,000	
秋田まち子	3,000	
池田令子	5,000	
石若義雄	5,000	
大津教会	10,000	
小笠原純	5,000	
桂教会	10,000	
賀茂教会	15,000	
君村千代子	10,000	
京都葵教会	10,000	
京都丸太町教会	7,000	
工藤弘志	5,000	
熊谷沙蘭	10,000	
菅恒敏	5,000	

世光教会	10,000
張悦子	10,000
長岡京教会	10,000
野波志都子	5,000
平野正	5,000
福知山教会	10,000
藤本君	5,000
平安教会	13,300
水口教会	5,000
室町教会	5,000
森岡高康	5,000
森田喜基	5,000
匿名希望	5,000
匿名希望	3,000

【大阪・奈良・和歌山】

計	17口	2,175,754円
池田五月山教会	10,000	
泉大津教会	5,000	
扇町教会	10,000	
交野教会②	2,005,000	
小西望	10,000	
小林秀一②	1,344	
菅原照代	10,000	
高槻南平台教会	5,000	
天満教会	38,000	
浪花教会	6,000	
梅花教会	5,000	
藤戸和子	3,000	
マラナ・タ教会	2,000	
南大阪教会	40,410	
山口恒・山口教子	10,000	
山崎道子・山崎塁偉	10,000	
匿名希望	5,000	

【兵庫】				旭東教会	5,000	池内裕	30,000
計 11口 137,660円				倉敷教会	10,000	西八條敬洪	5,000
大澤宣	5,000			清水久恵	1,000		
奥村益良	3,000			周陽教会	5,000	【その他・住所不明】	
久保田リツコ	10,000			砂川晋治	3,000	計 2口	15,000円
摂津三田教会	10,000			防府教会	8,000	オオハシクニカズ	5,000
西宮教会②	84,660			三浦修	10,000	クドウモトイ	10,000
根津仁詩	2,000			柳井トメ代	10,000		
春名康範	5,000			横野朝彦	3,000	合計 106口 3,236,866円	
古河静子	2,000			匿名希望	1,000		
右田昌彦	3,000						
望月修治	10,000			【四国】			
匿名希望	3,000			(愛媛・香川・徳島・高知)			
				計 1口	20,000円	【その他・住所不明】の方で、お名前の漢字と地区をお知らせいただける方がありましたら、神学教育後援会のメールアドレスもしくは担当の山崎道子（豊中教会）までご連絡ください。	
【東・西中国】				今治教会	20,000		
(岡山・広島・鳥取・島根・山口)							
計 12口 71,152円				【九州・沖縄】			
足立こずえ	5,000			計 3口	45,000円		
津山教会	10,152			浅野直人	10,000		

2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会寄付金地区別表 中間報告

(2024年4月1日～2024年11月30日)

地区	2022年度決算		2023年度決算		2024年度累計		2024年度予算
	口数	金額(円)	口数	金額(円)	口数	金額(円)	金額(円)
北海道	5	27,500	7	59,540	5	50,000	100,000
奥羽・東北	6	46,000	4	28,000	3	15,000	100,000
関東	23	177,000	23	164,000	5	36,000	250,000
東京・神奈川・千葉	32	901,000	24	792,797	9	378,000	950,000
東海・中部・北陸	16	329,000	17	183,000	10	92,000	300,000
京都・滋賀	53	547,900	55	555,000	28	201,300	700,000
大阪・奈良・和歌山	38	394,250	37	410,650	17	2,175,754	550,000
兵庫	30	352,000	29	333,000	11	137,660	500,000
東・西中国	22	110,000	20	121,000	12	71,152	200,000
四国	9	105,000	8	135,000	1	20,000	200,000
九州・沖縄	13	112,000	11	97,000	3	45,000	150,000
その他					2	15,000	
合計	247	3,101,650	235	2,878,987	106	3,236,866	4,000,000

2024年度 全国同信伝道会神学教育後援会 会計報告

(会計年度 自2024年4月1日～至2025年3月31日)

2024年11月30日現在

収入の部

(単位：円)

	2023年度決算	2024年度予算	2024年度累計	予算比
前年度繰越金	3,360,363	2,731,227	2,731,227	100%
寄付金	2,878,987	4,000,000	3,326,866	83%
特別献金	50,000	50,000	50,000	100%
同信会会計より繰入れ				
雑収入	19	20	296	1480%
合計	6,289,369	6,781,247	6,108,389	90%

支出の部

(単位：円)

	2023年度決算	2024年度予算	2024年度累計	予算比
海外留学生奨学金	360,000	360,000	360,000	100%
神学生奨学金	480,000	720,000	600,000	83%
赴任時奨学金	600,000	800,000	0	0%
神学部への寄付	50,000	30,000	0	0%
神学研修講座補助金	100,000	100,000	100,000	100%
神学協議会補助金	400,000	0	0	
献身キャンプ(東・西)補助金	400,000	400,000	400,000	100%
予餞会補助	100,000	50,000	0	0%
募金事務費	121,153	150,000	51,603	34%
印刷費	0	10,000	0	0%
郵送費	254,502	350,000	153,192	44%
雑費	52,487	60,000	16,250	27%
予備費	0	2,731,247	0	0%
神学生緊急支援金	300,000	300,000	0	0%
派遣神学生支援金	340,000	720,000	470,000	65%
次年度繰越金	2,731,227		3,957,344	
合計	6,289,369	6,781,247	6,108,389	90%

海外留学生奨学金：奨学金(12万円×3名)支出 ※募集は3名
神学生奨学金：奨学金(12万円×5名)支出 ※募集は7名
派遣神学生教育支援金：支援金(1ヵ月1万円×12ヵ月×3教会、×11ヵ月×1教会)
神学生緊急支援金：奨学金(10万円) ※募集は3名
赴任時奨学金：奨学金(20万円) ※対象者全員支給
献身キャンプ補助金：西日本キャンプ(15万円)、東日本キャンプ(25万円)
募金事務費：振替料金、領収書・献金依頼書発送費、事務局経費、会計事務謝礼
郵送費：ニューズレターNo.25郵送費、宛名ラベル代仮払い
雑費：奨学金授与式昼食代

【振込および領収書について】

これまで、皆さまから振込みでささげられた献金には領収書を発行しておりましたが、手数料や郵便料金の大幅な値上げに伴い、2024年度よりこれを原則廃止とさせていただきます。郵便払込用紙をご利用になった際に残る受領証、または口座からお振り込みの場合は通帳記帳をもって領収の証しとさせていただきます、年2回発行されるニューズレターに毎回掲載される寄付金報告にて、ご確認をお願いいたします。書留や現金の場合および領収書を希望する旨をお知らせいただいた方には別途お送りいたします。
皆さまよりささげられた寄付金をより有効に用いさせていただくためにも、ご理解とご協力の程、よろしくをお願いいたします。

全国同信伝道会会計収支経過

収入の部

単位：円

科 目	2023年度 予算	2023年度 決算	2024年度 予算（案）	2024年度 11月7日現在
前年度繰越金	2,858,898	2,858,898	3,122,235	3,122,235
分担金	850,000	904,051	900,000	250,000
会費	300,000	422,000	400,000	215,000
感謝献金	550,000	440,297	400,000	179,000
クリスマス献金	100,000	61,000	50,000	0
東京同信伝道会分担金	250,000	500,000	250,000	0
会衆主義パンフレット	5,000	8,560	5,000	0
招聘ハンドブック	150,000	16,500	15,000	172,500
受取利息	10	20	10	370
合 計	5,063,908	5,211,326	5,142,245	3,939,105

支出の部

単位：円

科 目	2023年度 予算	2023年度 決算	2024年度 予算（案）	2024年度 11月7日現在
人事委員会費	150,000	151,607	150,000	100,121
問安費	150,000	62,430	150,000	146,730
事務通信費	50,000	36,688	40,000	35,813
慶弔費	50,000	30,900	50,000	1,540
合同委員会（6月）	450,000	290,461	450,000	404,436
合同委員会（8月）	0	19,000	0	0
合同委員会（11月）	450,000	405,055	450,000	0
財務委員会費	50,000	50,000	50,000	0
教職養成部門委員会費	100,000	100,000	100,000	100,000
ネットワーク部門委員会費	50,000	50,000	50,000	0
ニュースレター印刷費	300,000	266,200	300,000	129,360
会衆主義教会研究会費	400,000	264,810	400,000	222,400
招聘ハンドブック	100,000	71,940	0	0
ホームページ	100,000	0	100,000	0
代議員会費	150,000	190,000	0	0
補助金	100,000	100,000	100,000	100,000
予備費	2,413,908	0	2,752,245	100,000
次年度繰越金	0	3,122,235	0	2,598,705
合 計	5,063,908	5,211,326	5,142,245	3,939,105

✧ 教 師 異 動 報 告 ✧

◎臂奈津江教師 新島学園短期大学兼務教務
教師に就任されました。

◎北村智史教師 東京府中教会主任担任教師
辞任されました。

◎原 牧人教師 東京府中教会代務者に就任
されました。

◎竹ヶ原政輝教師 高の原教会主任担任教師
辞任されました。

◎森田喜基教師 高の原教会代務者主任に就
任されました。

◎谷上れい子教師 流山教会 按手を受けら
れました。

隠退教師

◎小橋孝一教師 新島教会主任担任教師を辞
任されました。隠退されました。

◎稲生勝也教師 隠退されました。

◎横山順一教師 隠退されました。

◎山下裕三教師 隠退されました。

長年のお働きを主がねぎらわれますようお
祈りいたします。

✧ 召 天 者 報 告 ✧

松井 初教師 2024年7月19日 63歳

2005年 同志社大学大学院修了
水戸教会、燕教会、新発田教会、倉敷水島
教会、高鍋教会、佐野教会で伝道牧会され
ました。

多芸正之教師 2024年7月30日 80歳

1968年 同志社大学大学院修了
袖ヶ浦ともしび伝道所、大津教会、西小倉
めぐみ教会で伝道牧会されました。

酒井哲雄教師 2024年8月4日 98歳

1950年 同志社大学神学部卒業
弓町本郷教会、膳所教会で伝道牧会されま
した。

鈴木 敏教師 2024年8月28日 94歳

馬見労務教会、利府教会、塩釜教会、中川
教会、荒木伝道所、島村教会、小出教会で
伝道牧会されました。

江守秀夫教師 2024年9月9日 66歳

1983年 同志社大学大学院修了
大森めぐみ教会、香住教会、丹波新生教会、
甲南教会、大津教会、安中教会、新生教会
で伝道牧会されました。

近藤十郎教師 2024年11月21日 81歳

1969年 同志社大学大学院修了
飢肥教会、鳥取教会、城陽教会、野洲キリ
スト教会で伝道牧会されました。
同志社大学、梅花女子大学で教務教師を務
められました。

ご遺族ご感謝の上に主のお慰めをお祈りい
たします。

『天上の友』第五編出版の募金のお願い

2024年12月11日
全国同信伝道会常任委員会
委員長 菅根 信彦

この度、全国同信伝道会では、会衆主義教会の伝統と精神を受け継ぐ諸教会・伝道所をはじめキリスト教関係学校や関係施設・諸団体に仕え、その生涯をささげた教師、また、その働きに準ずる方々の足跡と働きを記録する『天上の友』第五編を発行することにいたしました。

これまで『天上の友』は、1915年に第一編、1933年に第二編、1988年に第三編、さらに、2014年に第四編が発刊され、今回の第五編は10年ぶりの発刊となります。この間に、130名以上の教師や働き人が天に召されました。その尊い生涯を心に刻みながら、その背後で働いた主の業を覚えたいと思います。さらに、主の招きに応え「地の塩」「世の光」として歩まれた方々の名前と働きを覚えることは、次に続く方々の豊かな道標になるかと思えます。

今回の第五編の編集責任は上林順一郎先生に、編集実務は東京同信会の先生方にお願いしています。現在、順次執筆原稿も集まっています。2025年8月下旬に開催予定の「神学協議会」に合わせてお手元に届くようにと順調に作業が進んでいます。

つきましては、今回の『天上の友』第五編出版のために、下記の要領で募金を行うことを決めました。趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。皆様のお働きの上に主の祝福をお祈りいたします。

■ ■ ■ 募金要領 ■ ■ ■

■ 募金目標額 200万円（キリスト教新聞社より1000部発行予定）

■ 募 金 額 一口 3,000円
できれば複数口でお願いいたします。一冊贈呈いたします。

■ 募 金 口 座 全国同信伝道会の郵便口座をご利用ください。
全国同信伝道会 口座番号 01050-0-54975

◇ 行 事 予 定 ◇

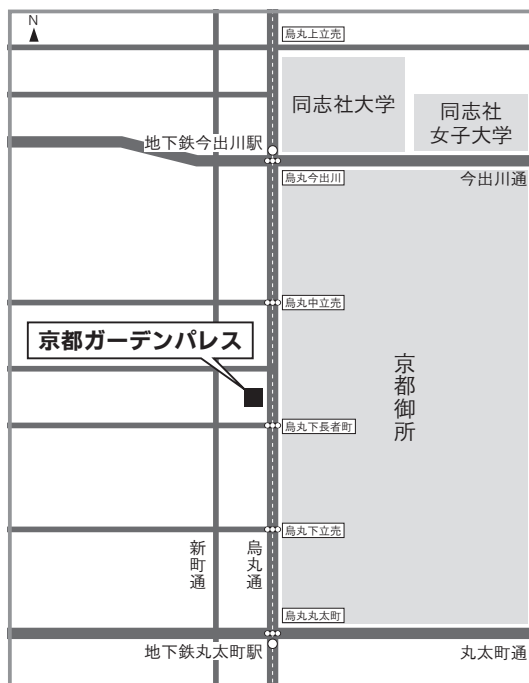
●予餞会

日時：3月7日（金） 午後6時～

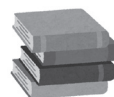
場所：京都ガーデンパレス

参加費：5000円

- ・後日郵送する往復ハガキにて申し込みをしてください。
- ・参加費は当日出席される際に受付でお支払いください。



出版 物



- ・会衆主義パンフレット1
会衆主義について ～キリストにある自由を生きる群れ～ 税込 432円
- ・会衆主義パンフレット2
会衆主義教会のあゆみ ～キリストと共に進む宣教の展開～ 税込 432円
- ・会衆主義パンフレット3
会衆主義教会の使命 ～キリストに与えられた務めと希望～ 税込 540円
- ・会衆主義教会ハンドブック「教師招聘」 500円

販売取次教会

伊丹教会 山本 一
豊中教会 山崎道子
霊南坂教会 後宮敬爾

同志社教会 菅根信彦
南大阪教会 尾島信之

